2-5．普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会

取組み方針①：合意形成活動の方向性等について継続した議論を実施する。

取組み方針②：若手の会、NB ミーティング両組織が活動を進めていく中での課題等について検討し情報共有を図ると共に、各々の組織にフィードバックさせる事により、着実な合意形成活動に繋げていく。

（1）普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会の企画・開催

1）開催概要

本業務の進捗状況の報告や活動成果の検証等を行い、着実な合意形成活動に繋げていくために、「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」を計 3 回開催した。

今年度は、字別意見交換会と NB ミーティングの活動内容について、周知方法や進め方等に関する意見を頂いた。また、今年度の取組み結果を踏まえた課題と、今後の意向醸成活動を行う上での留意点や取組み内容等について検討を行った。

２）第１回実施概要及び議事要旨

○実施概要

①日　　時　：令和元年８月 27 日（火）　17：30～19：30

②会　　場　：宜野湾市農協会館２階　でいご

③出 席 者　：石原　　昌家　　沖縄国際大学　名誉教授【会長】
（敬称略）　上江洲　純子　　沖縄国際大学　教授【副会長】
又吉　　信一　　宜野湾市軍用地等地主会　会長
佐喜眞　祐輝　　宜野湾市軍用地等地主会　副会長
又吉　　真由美　宜野湾市軍用地等地主会　事務局長
大川　　正彦　　普天間飛行場の跡地を考える若手の会　会長
宮城　　武　　普天間飛行場の跡地を考える若手の会
呉屋　　勝広　　ねたてのまちベースミーティング　副会長
浜川　　ルミ子　ねたてのまちベースミーティング
多和田　功　　宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長
立山　　善宏　　専門員（昭和株式会社）

《事務局》
東江　　信治　　宜野湾市基地政策部まち未来課　係長
髙良　　夏美　　宜野湾市基地政策部まち未来課
松原、青野、石井（昭和株式会社）

④式次第　　：１．開会
２．令和元年度懇話会について
３．議題
令和元年度の取組みについて
４．閉会

⑤配布資料　：・令和元年度　第１回　普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 次第
・普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会設置要綱及び名簿
・資料①：関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務【普天間飛行場】
令和元年度の取組みについて
・資料②：字別意見交換会　開催概要（案）

○意見概要

昨年度及び今年度の活動概要について地主会事務局より説明

又吉（地主会事務局長）

普天間飛行場東側の市道宜野湾 11 号予定地の引き渡しが平成 31 年 3 月末にあり、事務では補償金や給付金の支払いで慌ただしい一年であった。
西普天間住宅地区跡地については、宜野湾市と跡地利用計画の実現に向けて取り組んできており、平成 31 年に土地区画整理事業の認可を受け、仮換地指定に向けて着々と進んでいる状況である。
キャンプ瑞慶覧のインダストリアル・コリドー地区が令和６年度（2024 年度）またはその後に返還予定のため、昨年度からまちづくり勉強会を宜野湾市と開催している。次年度は基本方針づくりに向けた取組みを進める予定である。
また、市で計画されている道路事業については、軍用地に関連する部分があるため、地権者の不安を少しでも払拭できるよう情報提供や相談窓口を設けている。軍用地については沖縄県・宜野湾市で先行取得を行っており、さらに沖縄県では昨年から地権者への戸別訪問を行っているため、地主会としてはそれらに関する意見交換や事務調整を行っている。それ以外にも、地権者の母数は増えているが地料は増えていない状況であるため、今年度の地主会会費率の見直しを行い、軍用地料の 0.45%から 0.50%に引き上げを行った。将来の地権者組織として成り立たせ、引き継いでいくためにも財源は必要と考える。
地権者向けの、地主会の事業の説明と地権者の研修を兼ねた全体説明会を平成 29 年度から開催しており、平成 30 年度は相続や税金制度について説明を行った。今年度は 11 月頃に行う予定であるが、内容は未定である。地権者は相続に興味がある方が多いので、相続法改正等について情報提供を行っていければと考えている。

石原（沖縄国際大学　名誉教授）

地権者の母数が増えているという事であるが、その理由は相続によるものなのか、あるいは投資対象として増えているのか。

又吉（地主会事務局長）

理由としては両方ともあるが相続が最も多い。筆数で見ても 50%が相続である。新しく県外の方が相続された割合等は把握できていないが、普天間飛行場に限らず申し上げると、軍用地部分の地権者数が平成 31 年３月末で 4225 名。うち宜野湾市内が 2574 名、県内（宜野湾市外）が 1376 名、県外が 263 名、国外が 12 名である。

若手の会の活動について

宮城（若手の会）

資料①P2　上から６行目「若手の会から事業を牽引する人材が輩出される」とあるが、数年前に新規で参加された方が今年は参加されていない。一時期は参加者数が増えていったが、また減ってきている。今年に入ってからの参加者は

	いつもと同じメンバーである。そのような、一時期は参加していたが来なくなったメンバーをどうするか。また、P5 にも記載されている「新規メンバーへの事前学習の実施」について、昨年度は新メンバーに対する手引書を作成してはどうかという話が定例会の中であったため、手引書を見て大まかな会の内容を理解してもらい、定例会に臨んで頂ければと考えている。
事務局	手引書については昨年度途中まで作成していたが、作成を今は止めておこうという話になっている。そのため、まず手引書の作成をどう取り扱うか、若手の会として今後検討頂きたい事項と考えている。しかし、初参加者への事前レクチャーという点に関して言えば、定例会終了後個別にこれまでの若手の会の取組み内容や、会の活動目的や主旨について丁寧な説明を事務局として今後させて頂ければと考えている。
石原 （沖縄国際大学　名誉教授）	手引書という名称では固苦しいので、Q&A 形式にすれば良いのでは。若手の会メンバーにとっては当たり前の事でも新規メンバーには分からない事があるため、そういった内容を Q&A 形式でまとめれば新規メンバーへの説明時間も省略できる。
事務局	手引書については、先程のご意見を含め若手の会の中で調整頂ければと考える。
立山 （専門員）	若手の会に新メンバーが入るのは嬉しい事であるが、新メンバーからの質問に時間が割かれ、議論が進まない事は問題である。一方、長年若手の会活動に取り組んでいるメンバーの情報量や知識にすぐ追い付けるのかといえば、それも難しい。そのため、基礎的な事項を取りまとめた Q&A を作成して新規メンバーに配布する取組みは良いのでは。合わせて、新規加入時には会の趣旨等について個人レベルでレクチャーを行う機会を設ける等、会を円滑に進めるための工夫が必要である。
大川 （若手の会会長）	過去に若手の会のしおりやパンフレットを作成して頂いたが、在庫がないため新たに作成する必要があるのでは。 字別意見交換会では跡地利用計画策定に向けた取組みの説明に時間を要し、地権者の声が充分に聞けない状況である。若手の会の説明が長いという意見もある事から今年度は事務局の説明のみにとどめ、後はテーブル形式での意見交換という流れで進めてはどうか。
浜川 （ＮＢミーティング）	若手の会や NB ミーティングについては、会の活動や検討内容について最初から詳しい話を知っておかなくとも構わないのではないか。多くの人に気軽に参加して頂き、その中で興味のある人が会に残ればよい。詳しく知りたい人と軽く知りたい人の情報を分けてはどうか。ホームページや若手の会手引き等につ

いても、軽く分かりやすい内容を最初に掲載すれば入ってきやすいのではないか。

字別意見交換会について

事務局　字別意見交換会について、地主会として気になる点があれば教えて頂きたい。

又吉（地主会会長）　事務局や若手の会から丁寧な説明を受けても、初めて参加した人は何を質問すればよいのか分からない。継続的に開催し、徐々に理解して頂くしかない。回数や参加者が少なくとも継続する事が大事である。
新しい方が参加された時、事務局としてどういった新しい情報が提供できるかによって新鮮味も出てくる。参加した地権者が勉強になったと思えるような意見交換会にする必要がある。字別意見交換会は、地権者の意見を吸い上げる場として必要である。

宮城（若手の会）　字別意見交換会は昨年度４回開催されているが「説明が長く討論の時間が少ない」と言う意見があるため、その場の状況を見ながら説明を短くする必要がある。

又吉（地主会会長）　地権者にとって興味があった事等、意見を吸い上げる場は大事である。

多和田（宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長）　これまで実施してきた字別意見交換会の配布資料は難しかったため、今回は資料枚数も少なく分かりやすくしたい。例えば、現在鉄軌道の検討が進められているが、構造等の専門的な話は地主の方は理解するのが難しいと思われるため、ルートの話に絞る等工夫したい。
字別意見交換会の参加人数が多いと各テーブルの人数も多く、地権者の意見を聞くのに時間を要する。多くの意見を聞けるよう、終了時間の延長も含めて調整していければと考える。
これまで２月に字別意見交換会を開催していたのは、若手の会の検討結果の発表の場と位置づけていたためである。しかし寒い時期で参加者も少ない事から、今回は開催時期を 10 月～12 月頃に変更した。若手の会の検討テーマを強く出しすぎるとこれまでと同じになりかねないため、若手の会の検討テーマの発表の場ではなく、現在の検討内容に対して意見を伺う場としても良いのではないか。

上江洲（沖縄国際大学教授）　私のゼミでは、経験値の高い人が低い人の面倒を見るようにしている。留学生でもそうであるがバディ制度を採用し、意見交換と意見集約を行う際にバディがフォローする。字別意見交換会においても有効な手法の１つではないか。
また、意見を述べるにあたりお題が設定されていると意見が出やすいため、まずそれについて意見交換し、その後お題を定めない自由意見を述べる時間を設

定してはどうか。若手の会の役割を意見交換会に盛り込むならば、例えば若手の会がお題を設定し、それに対する意見交換を行えば地権者や市民からの意見を吸い出す事ができるのではないか。そういった満足感が参加者にあれば次につながると考える。

石原（沖縄国際大学　名誉教授）：過去の意見交換会で出た意見については、取りまとめているのか。

事務局：頂いた主要な意見については取りまとめて報告書に記載すると共に、地権者支援情報誌ふるさとに掲載する事で全地権者に対して周知している。

石原（沖縄国際大学　名誉教授）：ふるさとに掲載した意見について、字別意見交換会の参加者は見ているのか。例えば意見交換会会場で、過去の意見を取りまとめたものを配布すれば、参加者も触発されるのではないか。

宮城（若手の会）：過去の字別意見交換会でよく出る意見、主な質問をＱ＆Ａで会場に準備してはどうか。

立山（専門員）：Q&A を準備するのであれば、字別意見交換会自体に支障が出ないよう、提示する情報については充分考える必要がある。

NB ミーティングの活動について

呉屋（ＮＢミーティング副会長）：NB ミーティングにも個人で考え方やこだわりの差がある。私は、市民の目線で意見を述べて頂ければ構わないと申し上げているが、難しく考える方も多い。原点に戻り、まちづくりに対しては自由に自分の意見を述べる事ができるという事を理解して頂けるようにしていきたいと考える。神山地域で実施したまちあるきの結果等も含め、今後は若手の会メンバーも積極的に参加頂いて意見をもらい、周辺市街地住民からの意見とすり合わせていければと考える。

宮城（若手の会）：NB ミーティング主催の神山地域まちあるきに参加したが、良い内容だった。NB ミーティングの活動に若手の会も協力していければと考えている。

上江洲（沖縄国際大学教授）：NB ミーティングのまちあるきについて、地域住民は普段から自身のまちの課題が分かっているため、様々な意見が出ると考えられる。色々な意見が出る中で、何を自分が持って帰るのかが次に繋がってくる。地区ごとで課題を設定し、解決するための意見交換を行う形が良いのではないか。

まちづくり講座について

上　江　洲
（沖縄国際大学教授）

受講者の主体性を持たせるために３回目では自分から発信するような仕組みがあるとよいのでは。例えば第１回でテーマを設定し検討を進め、第３回で複数チームでの意見発表を行い修了書を渡す等。

立　山
（専門員）

昨年度にスタートしたまちづくり講座は全４回のプログラムであったが、回を追うごとに参加者が減ってしまった。地権者や市民に関心を持って頂けるテーマ設定や開催の工夫は必要であるが、より良い形で継続させていくためにもホームページのみでなく様々な機会で発信していく事が重要と考える。昨年度のイベント前に市役所ロビーで行った簡易アンケートでは、108 名中 100 名が「まちづくりに興味が持てた」と回答しており、市民の潜在的な関心はあるものと考える。今年度は前回懇話会での意見を踏まえてスケジュール全体を前倒ししているが、その事によりパネル展示や字別意見交換会と同時期にまちづくり講座を開催するスケジュールとなったため、まち未来だよりの発行を含め多くの機会でＰＲする必要がある。
また、我々都市計画コンサルタントにも、講座を受講すればポイントが入手できるＣＰＤ制度というものが存在する。例えば、大学生がまちづくり講座に参加しレポートを提出すれば、大学の単位取得ができる等、大学と連携した取組みができれば学生の参加に繋がるのではと考えるがいかがか。

上　江　洲
（沖縄国際大学教授）

大学の単位については条件が厳しい。大学の講座の中に盛り込んで連携する事は可能である。大学で求められる事は、PBL（Project Based Learning；課題解決型学習）であり、課題を与えて学生自身が解決方策を発信する取り組みである。教授と協力して、計 15 回という大学の授業の中で、この３回分は受講しないと講義の内容として成果にならないという形で参加してもらう方法はある。

石　原
（沖縄国際大学　名誉教授）

シンポジウムや講座に参加してレポートを提出すると、授業の評価の指標の１つにするという事は以前行った事がある。

事　務　局

今年度は「跡地利用による周辺市街地への効果と影響」というテーマを設けている。昨年度の参加状況を鑑みると、内容やテーマ、言葉が難しいのではと考えている部分がある。地権者や市民の興味を惹きそうなテーマとして何かあれば、お考えを伺いたい。

又　吉
（地主会事務局長）

若手の会発足当初も、新都心を見学し、普天間飛行場返還後はどのようなまちづくりができるか意見交換を行った事がある。

宮城 （若手の会）	メインテーマはそのままとし、サブテーマを平易な言葉で設けてはどうか。
浜川 （ＮＢミーティング）	「普天間飛行場が返ってくる前と後」というようなテーマは分かりやすいのではないか。
上江洲 （沖縄国際大学教授）	「普天間基地が還ってきたら？？ビフォー・アフター」というテーマは分かりやすくて良いのでは。
呉屋 （NBミーティング副会長）	子ども達の目線から見て、自身の住んでいるまちの周辺がどう変わってほしいというような、希望を持たせればよいのではないか。
又吉 （地主会会長）	普天間飛行場内だけ整備しても、周辺市街地を一体的に整備しないと良いまちはできないため、方向性が混在してしまうのではないか。テーマを明確にさせておく必要がある。
上江洲 （沖縄国際大学教授）	それは講師に考えてもらえばよい。市民には区別が付いていない。参加してもらい「これまで自分が抱いていたイメージとは異なり、こういう事を考えているんだ」という事を学んでもらえればよいと考える。講師に目的と方向性を決めて頂いておく必要はあるが。
立山 （専門員）	資料①P14 に記載されている通り、普天間飛行場跡地のまちづくりは跡地の中だけを考えても機能せず、周辺市街地と一体的に考える必要があり、そのためのきっかけとなるのが今年度の講座の主旨である。先ほどのビフォー・アフターで言えば、ビフォーが現状、アフターが跡地利用に伴い変化した周辺市街地の状態という事になる。
又吉 （地主会会長）	テーマを明確にして進める必要がある。跡地利用と周辺市街地を一体的に考えるという事は、幅が広すぎるのではないかと懸念する所もある。
石原 （沖縄国際大学　名誉教授）	開発前後の比較という事であれば、浦添市のモノレール前田駅～てだこ浦西駅区間が大きく変化しているため、１つの事例としてもよいのではないか。
	イベントについて
上江洲 （沖縄国際大学教授）	イベントのパネル展示の感想について、シールを貼って選択してもらう仕組みは分かりやすくて良いが、選択肢が「大変良かった」、「良かった」、「普通」、「良くなかった」では、大半が「良かった」に回答すると考えられる。そのため内容を工夫して、その結果を報告できるようにしてはどうか。また、アンケート手法について、学生の場合はバーコードに慣れているため、バーコードの読み取っての数問のアンケートならば回答が期待できる。その方法であれば、学生

目線で聞きたい事として内容を絞る事はできると考える。そういった質問の中に、自身が回答した事がイベントで反映されている事が参加すれば分かるものがあると、より次に繋がると考える。
結局、「参加し甲斐があった」という所に集約されるのではないか。

多和田（宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長）：資料①P13　2）イベントについて、現時点でＮＢミーティングと調整している内容はあるのか。

事務局：８月のＮＢミーティング定例会で、子どもや若い方を対象としたイベントを開催したいという話が後半で出たところであり、具体的な内容は未定である。

多和田（宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長）：ＮＢミーティングを含めた市民向けのイベントは非常に大事である。

上江洲（沖縄国際大学教授）：大学生も主要ターゲットと記載されているため、イベントについては、できれば早目にお知らせ頂きたい。

浜川（ＮＢミーティング）：NB ミーティングでイベントの話があった事について補足したい。昔県の主催で子ども達を対象とした普天間飛行場跡地の絵画コンクールが開催され、その時に応募した子どもが大人になり、自分の子どもが絵画コンクールに絵画を応募して「私が子どもの頃も同じイベントがあった」という話があったという事から、子どもの頃から跡地利用について考えるというイベントの話になった。

情報発信の仕方について

浜川（ＮＢミーティング）：まちづくりに関心がある人はインターネットで情報を探している。例えば若手の会については、「若手の会」というキーワードで検索できるのか。

多和田（宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長）：市ホームページにも若手の会・NB ミーティングの活動は記載されているが、情報量が多く細かいため見づらい。市としても情報発信の仕方を整理する必要がある。

上江洲（沖縄国際大学教授）：ホームページに初心者マークを付けて、そこだけ見れば大まかな内容は理解できる等も考えられる。

又吉（地主会会長）：誰が見ても見やすい、馴染みやすいものにする事が大事である。

	その他
石　　原 （沖縄国際大学　名誉教授）	4～5 年前の話であるが、業務受託者が大学に訪れた際、将来の普天間飛行場跡地のまちづくりのデモンストレーションを作製するためのアイデアを出して頂きたいという話があったが、その後どうなったか。字別意見交換会の場で見てもらえれば、イメージがわきやすいのではないか。
立　　山 （　専　門　員　）	字別意見交換会の際に、県市共同調査で作製された動画を放映しているが、その動画の事か。
石　　原 （沖縄国際大学　名誉教授）	その事かも知れない。動画は活用しているという認識でよいか。
多　和　田 （宜野湾市基地政策部次長 兼まち未来課長）	県市共同調査の中で作成した動画についてはイベント等で活用しているが、別の動画の事かもしれないので、市の方で確認したい。

３）第２回実施概要及び議事要旨

〇実施概要

①日　　時　：令和元年 12 月 26 日（木）　17：30～19：50

②会　　場　：宜野湾市役所別館３階第一会議室

③出 席 者　：石原　　昌家　　沖縄国際大学　名誉教授【会長】
（敬称略）　上江洲　純子　　沖縄国際大学　教授【副会長】
又吉　　信一　　宜野湾市軍用地等地主会　会長
又吉　　真由美　宜野湾市軍用地等地主会　事務局長
宮城　　武　　普天間飛行場の跡地を考える若手の会
富川　　盛光　　普天間飛行場の跡地を考える若手の会
佐藤　　努　　ねたてのまちベースミーティング　会長
呉屋　　勝広　　ねたてのまちベースミーティング　副会長
多和田　功　　宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長
立山　　善宏　　専門員（昭和株式会社）

《事務局》
東江　　信治　　宜野湾市基地政策部まち未来課　係長
髙良　　夏美　　宜野湾市基地政策部まち未来課
松原、青野、石井、崎山（昭和株式会社）

④式次第　　：１．開会
２．報告
第１回懇話会の概要
先進地視察会を振り返って
３．議題
字別意見交換会を振り返って
ＮＢミーティングの活動について
４．閉会

⑤配布資料　：・令和元年度　第２回普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 次第
・資料①：第１回普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会　議事録
・資料②：先進地視察会を振り返って
・資料③：字別意見交換会　意見概要
・資料④：イベント活動等市民向けの取組みについて
・資料⑤：ねたてのまちベースミーティング　令和元年度活動報告

○意見概要

先進地視察会について

富　　川
（若手の会）

今回は、主に鉄道沿線における大規模な土地区画整理事業地区を視察したが、どの地区も似通ったまちと感じたため、まちづくりを行う上では工夫や特徴が必要と感じた。
普天間飛行場跡地において緑をどうまちの中に取り込むか等、緑のネットワークのあり方を考えていく上で参考になった。
つくば駅から総延長約 48km のペデストリアンデッキが整備されているが、現在はあまり活用されていないという話であった。普天間飛行場においても同様、単純にデッキを整備しただけではあまり活用されないと考えられるため、緑のネットワークを広幅員の歩道と組み合わせて構築し、木陰の中を歩く形にすれば人も歩くのではと考える。
まちが出来上がった後のまちづくりの仕組みの１つとして、駅前保育ステーションという取組みは参考になった。
居住者の意識が高い（民度が高い）人達が住むと、よい町になる。景観や防犯等に関する市民講座等を継続して開催し、意識を高めていく取組みが必要であると感じた。

呉　　屋
（ＮＢミーティング副会長）

宅地の隣地境界の柵も低く見通しがよく、防犯の面で参考になった。
柏北部東地区について、天候が良ければ農作業をしながら雑談をする等、常に誰かが外にいて声を掛け合える状況にあるという光景が想像でき、まちの安全に自然と繋がるのではと感じた。
中根・金田台地区について、緑住農一体型住宅地の考え方が特徴的な点であり、管理組合を設立し良好な景観を創出している点が参考になった。普天間飛行場跡地においても、どうしても一定のまちづくりルールが必要であると感じた。
つくば駅中心市街地については整備後約 50 年が経過しており、現在当該地区で直面している課題を知る事ができて良かった。普天間飛行場跡地においても同様、長期的なまちづくりの視点を持って、更新時期を念頭に置きながらまちづくりを検討していく事が必要であると感じた。

宮　　城
（若手の会）

新市街地地区における安心・安全まちづくり協議会の活動内容について、立ち上げ後は県の事業による補助を活用し、現在は協賛金で賄っているという事であるが、協賛金は県事業による補助金よりも高額なのか。
次に、同地区の市野谷の森は新市街地地区と県施行の流山運動公園周辺地区の公園を隣接させて一体的に公園としたという事であるが、面積はどの程度か。
最後に、宅鉄法は「大都市地域における宅地開発及び鉄道整備の一体的推進に関する特別措置法」という事であるが、当該法律は大都市限定であり普天間飛行場跡地への適用可能性はないのか。あるいは普天間飛行場跡地のために新た

な法律を制定する事ならば可能なのか。

富川（若手の会）：新たな法律という事ならば、政治的な判断による所が大きいのではないか。

事務局：1 点目について、県の補助事業であるため事業目的と内訳が決定していると考えられる。そのため事業の内容により金額も異なってくる。補助事業よりも協賛金が高額なのかどうかは確認が必要であるが、恐らく協賛で日常的な活動を行うという点から考えると、過去の補助金よりも低額であると推察される。
市野谷の森の公園面積については、現在手元に資料がないため確認させて頂きたい。

→市野谷の森公園面積について、全体 24.1ha(内、県の公園事業で 18.5ha、県施行区画整理で 2.6ha、UR 施行区画整理で 3.0ha)

宅鉄法の適用可能性について、対象となる鉄道及び地域は明確に定められていないため、適用の可能性については今後の個別判断になると考えられる。新たな法律制定の可能性についても同様、個別の判断と考えられる。

上江洲（沖縄国際大学教授）：私は学生時代つくば市にいたが、当時は歩車分離の考え方やペデストリアンデッキに非常に驚いた。デッキは家族連れがよく利用していた。しかし私の友人も TX 開通後は葛城地区に移り住んでおり、中心市街地の空洞化が進んでいる事は実体験として感じている。
時代を経るにつれ、まちも年老いていくため、それに合わせた取組みが必要と感じた。
若いまちをつくるにあたって、緑を繋ぐ、ペデストリアンデッキを整備するという考え方は、若い家族連れに対しては良好な空間を提供する事に繋がると考える。

佐藤（NBミーティング会長）：今回報告頂いた視察の資料についてパワーポイント版を作成し、NB ミーティングに活用させて頂けないか。多くの方に知識として知って頂いておく必要があるが、地域との意見交換の際、NB ミーティングの視察参加者から説明頂く等できればと考えている。

事務局：パワーポイント作成や NB ミーティングに活用頂く事は問題ないため、対応したい。

字別意見交換会について

立山（専門員）：跡地利用計画策定に向けた検討内容を若手の会が理解して説明する事は、将来の地権者合意形成を図っていく上で非常に有意義な取組みであったと考える。
今後計画の具体化が進んでいく上では、行政から地権者に対して説明するより

	も地権者同士で説明を行う方がスムーズな合意形成に繋がる場面も出てくると考えられる。 地元の会合と予定が重複したため、参加人数が少なかった日もあったと伺っている。地元の会合や大きな団体の活動予定日等避ける形で日程調整する事が可能であれば、より多くの参加人数が見込めると考える。
宮城 （若手の会）	字別意見交換会参加者へのアンケート結果について、字別意見交換会の時間が短かったという回答が４件あったという事であるが、意見交換会の後半になると慣れてきて意見を述べるようになったため、時間が足りないという回答になったのではと考える。
多和田 （宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長）	「字別」と冠した意見交換会であるため、これまではできるだけ自治会事務所等を活用して開催してきたが、結果的に地主が多く存在する宜野湾区、大山区、喜友名区で多く開催していた。 今回は会場の確保が難しく、３回中２回を市役所で開催したため、参加人数が減少した理由の１つである。反対に、初参加の方は中々自身が住んでいる地区以外の自治会事務所には行きづらいため、市役所で開催した事が、初参加者が増えた要因の１つなのではと考える。 会場について、自治会事務所と公共施設の組み合わせの検討を行う事により、初参加者の取り込みと多くの地主との意見交換が可能になるのではと感じた。 開催時期についても、もう一工夫あればより参加人数が増えるのではと感じた。
佐藤 （ＮＢミーティング会長）	字別意見交換会で頂いた意見をどう取り扱うのか。これだけ多くの意見を跡地利用計画に反映しないのか。生の地元の意見であるためぜひ計画に反映すべきと考える。また、地元とのコミュニケーションをどう取っていくかが重要になってくると考える。 整理の仕方の１つとして、跡地利用計画の各項目に対してどのような意見があるかという視点で整理し直してはどうか。
富川 （若手の会）	参加者について、過去の字別意見交換会から継続して参加している方よりも初参加者の方が多い。継続した参加を促すために、会の持ち方、意見のフィードバックの仕方等工夫できれば、意見交換会で頂いた意見もある程度共有できるのではないかと考える。
宮城 （若手の会）	毎年度参加している方もいるが、参加しても意見は述べず聞いているだけの方もいる。
事務局	継続した参加を促すための工夫として何か助言等あれば頂きたい。

又　　吉 （地主会会長）	地主会が説明会等開催する場合、説明会は家族での参加を呼びかけている。 跡地利用計画は将来に続く議題であるため、次世代を担う学生をターゲットとして開催すべきと考えている。毎年度意見交換会を実施する事について否定はしないが、人材育成も重要である。現在の取組みは継続しながらも、若い世代の育成も進める必要がある。 会場については市役所等公共施設で開催した方がよいのではないか。自治会事務所は会合や自治会行事、サークル活動等が予定されており、会場の確保が困難である。
上　江　洲 （沖縄国際大学教授）	参加しやすい日程を組み、初参加者でも参加しやすい内容にする。 現在は、頂いた意見を跡地利用計画に反映させる事が可能なのかと述べる事ができる時期であると考えられるため、多く頂いた意見が何なのか視覚的に見せる工夫（大きく太い文字で表す等）を行ってはどうか。 後は、意見交換会の内容が継続参加者のためのメニューになっていないため、コンセプトを変えても良いのではないか。 参加者を増やすための取組みの参考として、私は離島で外国人女性と結婚した方の調査を現在行っており、その調査では家族で参加頂くようにしている。子ども達も走り回れる事ができるように畳の間で開催する事により、若干ではあるが参加率が向上した。
石　　原 （沖縄国際大学　名誉教授）	民度が高ければよいまちになるという話と関連して、字別意見交換会の目標として、ある一定の意識共有も大事であり、１つの刺激になるのではないか。
立　　山 （専門員）	参加者を増やすための取組みとして、例えば平日昼間の開催の方が地主が集まりやすいならば選択肢の１つとしてもよいのではないか。
宮　　城 （若手の会）	その場合、若手の会メンバーの内、現役世代の参加は難しい。
又　　吉 （地主会事務局長）	地主会単独の説明会を平日昼間に開催したところ、初めて参加できてよかったという方もいらっしゃった。平日昼間に開催した場合、若手の会の参加が難しいならば説明の仕方を工夫してはどうか。また、地主の家族間で跡地利用計画について話し合える事のできるツール（過去に作成した副読本等）を活用し、跡地利用計画について考えるきっかけづくりを行っても良いのではないか。
	ＮＢミーティングの活動について
事　務　局	ＮＢミーティングから、次年度の活動内容について「若手の会との共同作業」という提案を頂いたが、若手の会として定例会の中で諮って頂き、結果をＮＢミーティングにお伝えする事で対応したい。

宮城 （若手の会）	個人的な意見としては、若手の会としても賛成頂けるものと考えている。
又吉 （地主会会長）	跡地利用計画の内容に対するＮＢミーティングとしての考えをどう取りまとめていく予定か、現時点の考えをお聞かせ頂きたい。
佐藤 （ＮＢミーティング会長）	ＮＢミーティングとして跡地利用計画に対する考えを取りまとめる事は考えておらず、地域の意見を吸い上げて有識者検討会議の場に提示する事を考えている。 地域からの意見がなかった場合、検討会議の意見だけで跡地利用計画策定の条件が確定してしまう懸念があるため、地域からの意見を事前に伝えておけばその内容を考慮した上で検討頂く事が可能となる。 ＮＢミーティングの役割の１つとしては、地域の意見を吸い上げ、整理し、有識者検討会議に伝える事と考えている。
	イベント活動（パネル展）について
佐藤 （ＮＢミーティング会長）	「普天間未来予想図 PV の放映」については、ＮＢミーティングとしての意見ではなく、また、放映に関しては個人的にも反対である。 理由は２つあり、１つは普天間未来予想図 PV のボリュームに対し、ＮＢミーティング活動紹介のボリュームが少ない事から圧倒されてしまい目立たなくなってしまう懸念がある事、もう１つは、普天間未来予想図 PV をＮＢミーティングが作成したと誤解されてしまう懸念がある事である。 ＮＢミーティング主体で開催するならば、ＮＢミーティングの意見を尊重すべきと考える。
宮城 （若手の会）	私は放映しても良いと考える。ＮＢミーティングが作成したものではない、と示しておけばよい。PV に惹きつけられてパネルの内容を見る方も存在するのではないか。
事務局	普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組み内容について周知を図るイベントとしてコンベンションシティに諮っているため、PV は放映する方向で進めたい。
上江洲 （沖縄国際大学教授）	パネル展で展示する内容は何を想定しているのか。
佐藤 （ＮＢミーティング会長）	定例会の中では、ＮＢミーティングは専門職の集まりではなく一般市民が集まっている事を伝えたいという意見が多かった事から、まちあるき等の活動を行っている写真に吹き出しを設け、メンバー自身の考えや思い等を追加して、楽

	しい部分もあるという事を伝えたいと考えている。
上　江　洲 （沖縄国際大学教授）	その効果として何を狙っているか。
佐　藤 （ＮＢミーティング会長）	ＮＢミーティングという組織の存在を周知したい。跡地利用計画は地主が議論すべき事項であり、市民は黙っているべきという考えを持った市民が多いのではないかと考えている。そうではなく普通の市民も参加できる事を PR したい。
上　江　洲 （沖縄国際大学教授）	市民が興味を持ったとして、その先はどういう事を考えているか。
佐　藤 （ＮＢミーティング会長）	QR コードでＮＢミーティングの取組みへの参加を呼び掛ける事を想定している。
上　江　洲 （沖縄国際大学教授）	直近のＮＢミーティング活動としてまちあるきがあるため、申込フォームに繋がるようにすれば良いのではないか。
佐　藤 （ＮＢミーティング会長）	その形で対応したい。
上　江　洲 （沖縄国際大学教授）	普天間未来予想図についても、PV ではなく静止画を並べる形で見せて、QR コードで動画サイトに飛ばす事もできると考えられるため調整頂きたい。 まちづくり講座についても合わせて QR コードを付けて頂きたい。大学生は電話で申し込みを行わない。若い世代向けに実施するならば、メールか申込フォームとなる。
又　吉 （地主会事務局長）	パネル展開催のアナウンスは行う予定か。
事　務　局	市役所ホームページでの周知と、年明けのチラシ作成・配布を考えている。
	その他
宮　城 （若手の会）	今後の話であるが、民度を上げるという発言に関連して、まちづくりに関する哲学をまちづくり講座のテーマとして設定し、意識を高めていっても良いのではないか。

４）第３回実施概要及び議事要旨

〇実施概要

①日　　時　：令和２年３月２日（月）　17：30～19：30

②会　　場　：宜野湾市役所別館３階第一会議室

③出 席 者　：石原　　昌家　　沖縄国際大学　名誉教授【会長】
（敬称略）　上江洲　純子　　沖縄国際大学　教授【副会長】
又吉　　信一　　宜野湾市軍用地等地主会　会長
又吉　　真由美　宜野湾市軍用地等地主会　事務局長
宮城　　武　　普天間飛行場の跡地を考える若手の会
富川　　盛光　　普天間飛行場の跡地を考える若手の会
佐藤　　努　　ねたてのまちベースミーティング　会長
呉屋　　勝広　　ねたてのまちベースミーティング　副会長
多和田　功　　宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長
立山　　善宏　　専門員（昭和株式会社）

《事務局》
東江　　信治　　宜野湾市基地政策部まち未来課　係長
髙良　　夏美　　宜野湾市基地政策部まち未来課
松原、青野、石井、崎山（昭和株式会社）

④式次第　　：１．開会
２．報告
第２回懇話会の概要
３．議題
令和元年度活動報告と今後の取組みに向けて
４．閉会

⑤配布資料　：・令和元年度　第３回普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 次第
・資料①：第２回普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会　議事録
・資料②：令和元年度活動報告
・資料③：今年度の課題と今後の取組みに向けて
・参考資料：各活動報告

〇意見概要

	若手の会について
宮城 （若手の会）	現在、若手の会の定例会参加人数は多い時で 10 名程度、少ない時は 3 名である。字別意見交換会への若手の会からの参加人数も 6～7 名と少なかった。若手の会の熱意が伝わっていないため、字別意見交換会での地権者の参加も少ないのではないか。 厳しい意見になるが、自分事として考えていく事が大切である。
佐藤 （NBミーティング会長）	参考資料に掲載している若手の会の取りまとめ結果について、外部に発信する予定はないのか。
事務局	報告書に掲載し公表される。また、地主会へのフィードバックも可能と考える。
佐藤 （NBミーティング会長）	若手の会の取りまとめは良くまとめられていると思うため、有識者検討会議で発信してはどうか。
宮城 （若手の会）	若手の会も地権者代表として有識者検討会議に参加しているため、会議の場において発言していければと考えている。
立山 （専門員）	参考資料 P1 の左下に記載されているが、若手の会は議論するだけではなく、結果を跡地利用計画の内容に地権者の意見として取り入れてもらうために検討している。
事務局	今後の有識者検討会議や次年度以降の字別意見交換会で、若手の会の考えとして発信していく予定である。
佐藤 （NBミーティング会長）	参考資料P2 の「(仮）跡地利用について考える会」とは、将来立ち上がる可能性がある組織の事か。後、「普天間飛行場に縁のない方（全く関係ない方）はメンバーの対象外」となっているのはなぜか。
事務局	P2については、若手の会からの意見をまとめている途中段階の資料であり、最終的に決まったものではない旨をまずご了承頂きたい。 「(仮）跡地利用について考える会」は、まちづくり協議会のような組織をイメージしており、地権者、若手の会、NBミーティングとその他関連団体（JCI・地域自治会の代表等）様々な主体の方々が集まって構成される組織を想定している。「普天間飛行場に縁のない方（全く関係ない方）はメンバーの対象外」としている理由としては、興味本位での発言を避けるためである。
佐藤 （NBミーティング会長）	普天間飛行場返還時期より後に、「(仮）跡地利用について考える会」ができると若手の会は想定しているのか。

事務局	発足時期についてはまだ議論が進んでいないため、継続して検討していきたいと考えている。
立山 （専門員）	若手の会として、「地権者の各々の土地活用意向に応じた地権者組織の立ち上げが今後必要」と意見が出ている。少しずつ、跡地利用計画の実現に向けた視点で検討内容を具体化する事が必要である。どのタイミングで組織を立ち上げるのか議論しても良いのではないか。
宮城 （若手の会）	「(仮）跡地利用について考える会」は必要であるが、現状の若手の会として、定例会の人数も集まらないため新組織を継続できるのか懸念がある。 NB ミーティングは次の世代に継承するため、高校生との連携した取組みを検討している。若手の会も若い世代の会員発掘が必要と考える。
石原 （沖縄国際大学　名誉教授）	次の世代に考え等伝えていくためには、Q&A 形式で会の活動紹介や考え等を分かりやすくまとめていく事が必要である。
富川 （若手の会）	若手の会は、会員は多いが定例会に参加している会員は限られている。 若手の会の名称変更を検討して頂きたい。 新規会員の発掘が必要である。新規会員がいないと世代交代すらできない。 返還後の事業着手までには会の引継ぎが必要になるため、組織の見直しが必要となる。組織のメンバーは土木と建築の関係者のみではなく、環境、動植物、社会学等他分野からの参加が必要である。
	NB ミーティングについて
佐藤 （ＮＢミーティング会長）	今年度の活動を振返って、市民が意見を出せる場をつくる事がＮＢミーティングの役割であると感じた。物理的な「場」ではなく「機会」をつくる事が重要である。 今年度は、都市計画マスタープランにおける都市の将来像と「全体計画の中間取りまとめ配置方針図（案)」を自治会単位で重ね合わせて、その複合図を用いてまちあるきを行った。地域単位に限定してまちあるきを実施した事により、多くの意見を伺う事ができた。 地域から頂いた意見については、有識者検討会議で概要を報告し、有識者検討会議で伝えた内容を各地域に伝える事がこれからの NB ミーティングの課題であると考える。有識者検討会議においても、地域単位の意見を盛り込んで頂きたい。 また、まちあるきを実施した 3 地区からの共通事項として、現状の課題が多く出てくるという事も重要である。普天間飛行場の周辺住民は、将来的に普天間飛行場跡地の需要者になる可能性が高い。現状の課題を解決させる事により、多くの土地活用の需要が掘り起こせるのではないか。

宮城 （若手の会）	私は NB ミーティングの活動に積極的に関わるという意味で、NB ミーティングまちあるきに全て参加した。2 回目の新城区では、若手の会から 4 名が参加したが、3 回目の大山区は 2 名であった。大山区のまちあるきは土曜日の午前中に実施され時間的な余裕があったが、神山地域と新城区は夕方に実施したため実施時間が 2 時間と短く、歩いている最中に薄暗くなり急ぎ足になった。大山区のまちあるきが、時間的に余裕もあり良かった。
呉屋 （NBミーティング副会長）	まちあるきを 1 回実施した地区に対して、2 回目、3 回目のまちあるきの告知をしておくべきであった。
	次年度の取組みについて
佐藤 （NBミーティング会長）	次年度の取組みとして、NB ミーティングの活動を次世代に引き継いでいくという意味で試験的に高校生を対象とした取組みを行えないか検討している。
佐藤 （NBミーティング会長）	まちづくり講座のテーマ②として「クリエイターが勤務する市内企業」と記載されているが、具体的にどのような講座内容を想定しているか。なぜクリエイターを選んだのか。
事務局	これまで地権者や市民のまちづくりという視点で知識習得を行ってきたが、企業（来る側）の話は中々伺えておらず、広告や IT 関係の方から話を伺う事ができれば、まちづくりに対する別の視点を習得できると考えたためである。この場でご意見を頂き、今後テーマも含めて検討させて頂きたい。
又吉 （地主会会長）	跡地利用計画の検討にあたっては地域の意見も大切であるが、西普天間住宅地区では様々な組織との意見交換会を行っている。今だからこそ、県民フォーラムのような大規模な会議が可能ではないか。地主会、若手の会や NB ミーティングだけでは、意見が出尽くす事となるため、民間組織（商工会等）を活用して意見交換を行った方が良いのではないか。商工会等から新たな意見を取り込んでいく時期ではないか。
多和田 （宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長）	若手の会、NB ミーティングと宜野湾市内のまちづくりに関連のある団体との意見交換の実施について、行政としても検討していきたい。 まちづくり講座の地域コミュニティの部分について、子ども達に歴史を継承していくことがまちづくりの糧になるという事が分かった。そのため、子ども達や若い世代に対し、跡地利用に関する学習を単発ではなく、継続して取り組める方法があればと考えている。例えば今年は３年生、次年度は４年生、その次の年は５年生を対象とした勉強会を開催すれば、対象学年の児童は継続して学ぶ事ができるため、単発の講座よりも効果的であると考える。大人になっても覚えているような、インパクトのある取組みを次年度行ってはどうか。

	将来的な組織について、例えば西普天間住宅地区では返還時期が決まり、返還まで後２年となった時期に実施したアンケートや説明会でも 2～3 割程度の回答・参加率であった。しかし仮換地指定前後の時期になると、８～9 割の地権者から意見が上がった。このように、直前にならないと地権者は動かないが、その時に力になったのは過去の勉強会に参加されていた方々や、地主会で構成された組織の方々（促進委員会）であった。 そういった経緯もあるため、若手の会、ＮＢミーティングメンバーの世代継承については返還後のまちづくりをスムーズに進めるためにも、行政としてしっかりサポートしたい。
富川 （若手の会）	若手の会と那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会（那覇市）、チームまきほ 21（浦添市）との合同意見交換会が年１回開催されているが、他組織の考えを聞く機会を増やすため、頻度を少し増やして年２～３回あっても良いのではないか。
立山 （専門員）	資料③P2「（５）字別意見交換会」について、平日昼間の実施を試験的に取組んでも良いと考える。 また、「意見交換内容が初参加者のためのメニューとなっているため、参加者の継続に繋がらないのではないか」という意見が前回懇話会の中で挙がっているが、字別意見交換会は広く一般地権者を対象に取組みの周知や意見収集を目的とした場である。参加者アンケートにおいても内容が難しかったという意見があり、継続性よりも初参加者を対象に分かりやすく伝えていく事にポイントを絞ってはどうか。
富川 （若手の会）	意見交換会の際、地権者に返還後のまちのイメージをどう持ってもらうかがポイントである。ただ説明を聞いただけでは何もイメージできない。イメージを持つためには「見る」「体験する」事が大切である。
又吉 （地主会会長）	西普天間住宅地区については、県外視察を通して減歩や換地、共同利用等の情報を集めた。 字別意見交換会については、初参加者を対象として良いと考える。
上江洲 （沖縄国際大学教授）	若手の会の取りまとめに関して、発信する事も重要である。「若手の会の意見を呼び水に地権者の意見を引き出す」とあるが、もう少し踏み込んでも良いのではないか。若手の会の考えとして変わらない考え方（根幹となる部分）については、地権者の意見として発信しても良いのではないか。 返還時期が延びるという事は、力を蓄える期間も伸びるという事である。そのため、「考え」をどうブラッシュアップするか、また、組織の話を詰めていく事が必要と考える。 NB ミーティングに関して、まちあるきの成果の地域へのフィードバックも重

要である。フィードバックを行うにあたって、新たにNBミーティング新規メンバー獲得に向けて動いても良いのではないか。
まちあるき実施済地域に対しては、今年度出てきた課題を説明した上で、その課題を踏まえて再度まちあるきを行っても良いのではないか。課題も見えているため、新たな参加者も増えると考える。
沖縄国際大学と宜野湾市が包括協定を締結した。産業情報学部は沖縄市において中心市街地活性化についてゼミで取組み、経済学部では環境をテーマに観光協会と１年間継続して取組んでいる。包括協定の下、学部や学科をまたいで通年の企画に取り組む事ができるのではないか。
まちづくり講座について、例えばクリエイターの件では「ＩＴ企業を集積させるために、ＩＴ企業の方々が働きやすいまちとは何か」といったようにコンセプトを絞る必要がある。これまで考えた事のないジャンルからの提言は、違う視点を入れるという意味では大事である。
字別意見交換会については、例えば字別代表者意見交換会を開催し、各字での興味、関心は何か、どのような方法で意見交換会を実施した方が良いか、率直に考えを伺ってみても良いのではないか。

佐藤（ＮＢミーティング会長）
まちあるきのフィードバックについて、具体的な方法はまだ決まっていないが、市民に「役立つ」機能がＮＢミーティングには求められていると考える。
次年度のまちづくり講座では、大規模公園をテーマとする事を提案する。継続的な宅地需要に公園は大きく関わってくるため、公園の作り方、使い方について講義して頂ければ地権者も興味を持つのではないか。「稼げる公園」をテーマとして頂きたい。

石原（沖縄国際大学　名誉教授）
字別意見交換会について、過去の意見の中から代表的な意見をピックアップし、それを基に再度意見交換して頂きたい。

宮城（若手の会）
次年度のまちづくり講座について、SDGs（Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標））をテーマとしてはどうか。

又吉（地主会事務局長）
地権者の意見を拾い上げていくためには、現状の字別意見交換会の持ち方では中々新たな参加者を募る事は難しいと考える。１人でも多くの意見を拾い上げていくための方法もあれば、大多数の意見が聞ければそれで良いという考え方もある。会の持ち方については検討が必要である。

５）「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」設置要綱

（設置）

第１条　普天間飛行場跡地利用に係る地権者等関係者の合意形成活動を確実に実施するために、地権者等関係者のそれぞれの活動内容及び方向性について十分な協議調整を図る事に資するために、普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

（協議事項）

第２条　懇話会での協議事項は、次のとおりとする。

（１）合意形成活動推進上の問題課題の整理に関する事。

（２）合意形成活動の仕組みと組織づくりに関する事。

（３）まちづくり手法の研究に関する事。

（組織）

第３条　懇話会は、次の会員をもって組織する。

（１）学識経験者

（２）宜野湾市軍用地等地主会

（３）普天間飛行場の跡地を考える若手の会

（４）ねたてのまちベースミーティング

（５）市の職員

（６）専門員（まちづくり実務者）

（任期）

第４条　会員の任期は、３年とする。ただし、再任は妨げない。

２　会員が欠けた場合における補欠会員の任期は、前任者の残任期間とする。

（役員）

第５条　懇話会に次の役員を置く。

（１）会長　　１名

（２）副会長　　１名

２　役員は、会員の互選により定める。

３　役員の任期は３年とする。ただし、再任を妨げない。

４　会長は、懇話会の会務を総括する。

５　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第６条　懇話会の会議は、会長が必要に応じて召集する。

２　団体会員の会議への出席者数は、議題に応じ必要人数とする。

３　会長が必要あると認めるときは、会員以外の関係者の出席を求め、意見を聞く事ができる。

（事務局）

第７条　懇話会の事務局は、宜野湾市基地政策部まち未来課に置き、その事務を処理する。

（補則）

第８条　前条までに規定するものの他、懇話会の運営に関して必要な事項は懇話会で決定する。

附則

この要綱は平成 27 年１月 27 日から施行する。

附則（追加）

１　この要綱は平成 30 年８月８日から施行する。

6）取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●次年度の取組みの方向性について

・以下の内容に関する取組みの方向性や考え方について意見を伺う事ができ、若手の会及び NB ミーティングへのフィードバックを行った。

- ・若手の会の次年度の取組み内容
- ・NB ミーティングの次年度の取組み内容
- ・若手の会及び NB ミーティングの検討成果に対する発信の仕方
- ・若手の会及び NB ミーティングの活動や考え方を次世代に継承していくための方法
- ・字別意見交換会の開催にあたっての、会の運営方法
- ・NB ミーティングと市民の関わり方

【今後の課題】

●継続した議論の必要性

・今後も継続して懇話会を開催し、合意形成を進めていくにあたっての方向性等について議論を進めていく必要がある。